

# 事業報告

会計財務を担当しております山内でございます。

# 事業の経過 及び その成果

私からはすでにお配りしている招集ご通知の中の事業報告と連結計算書類について、簡単にご報告させていただきます。

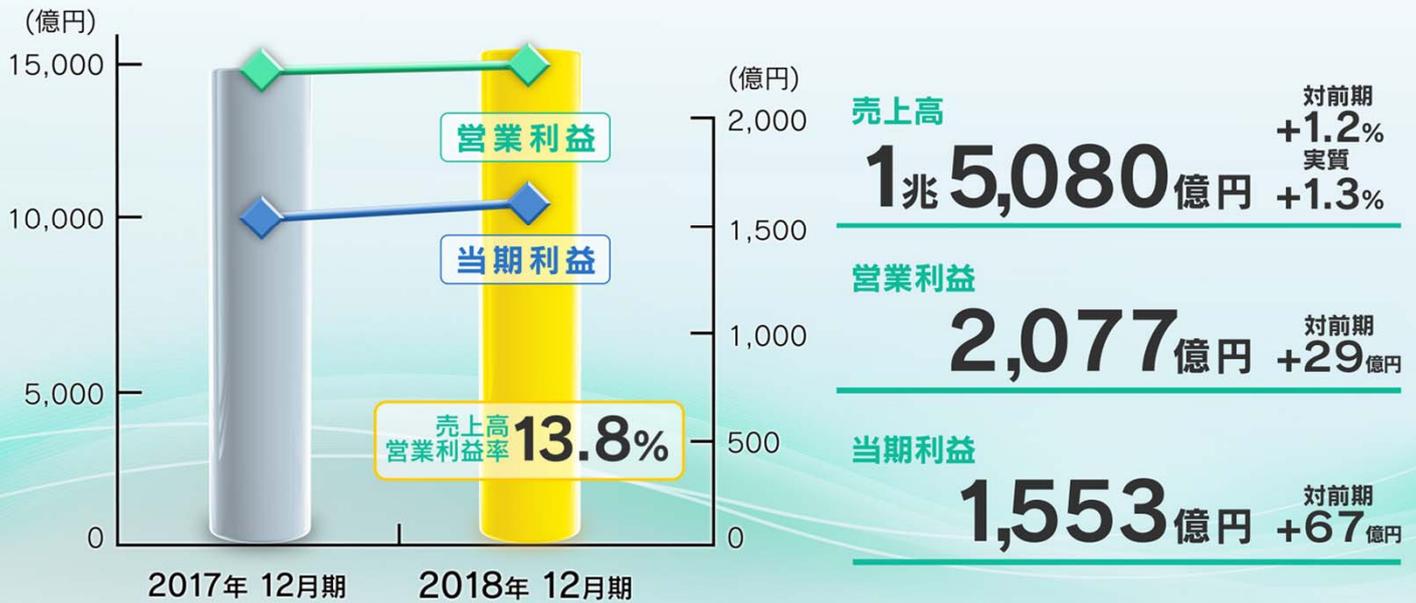
- ビューティケア事業を化粧品事業とスキンケア・ヘアケア事業に区分し、従来4区分としていた報告セグメントを5区分に変更
- 従来スキンケア・ヘアケア製品に分類していた「キュレル」を化粧品事業に、ヒューマンヘルスケア事業に分類していたメンズプロダクト「サクセス」をスキンケア・ヘアケア事業に組み入れ

まず初めに、花王グループの事業の経過及びその成果についてですが、当社グループは、2018年12月期よりビューティケア事業を化粧品事業とスキンケア・ヘアケア事業に区分し、報告セグメントを5区分に変更しています。

同時に、従来スキンケア・ヘアケア製品に分類していた「キュレル」を化粧品事業に、ヒューマンヘルスケア事業に分類していたメンズプロダクト「サクセス」をスキンケア・ヘアケア事業に組み入れています。

ご報告では、比較を容易にするため、これらの影響を補正し、さらに為替変動の影響を除いた増減率を以降、「実質」として表現しています。

## 連結業績

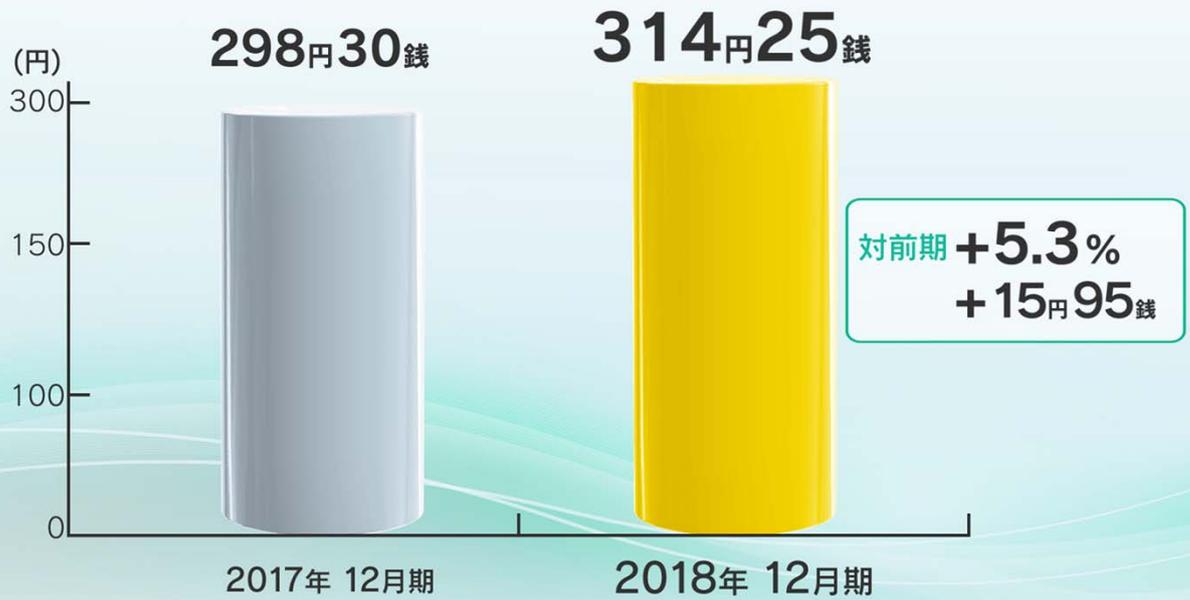


それでは数値のご説明にはいります。当期は、売上高は、前期に対して1.2%増の1兆5,080億円、実質1.3%の増加となりました。

利益面では、設備投資を増やしていますので、減価償却費等が増加しましたが、アジアのコンシューマープロダクツ事業の増収効果や、デジタルを活用したマーケティング費用の効率化等により、営業利益は前期に対して29億円増加し2,077億円、営業利益率13.8%となりました。

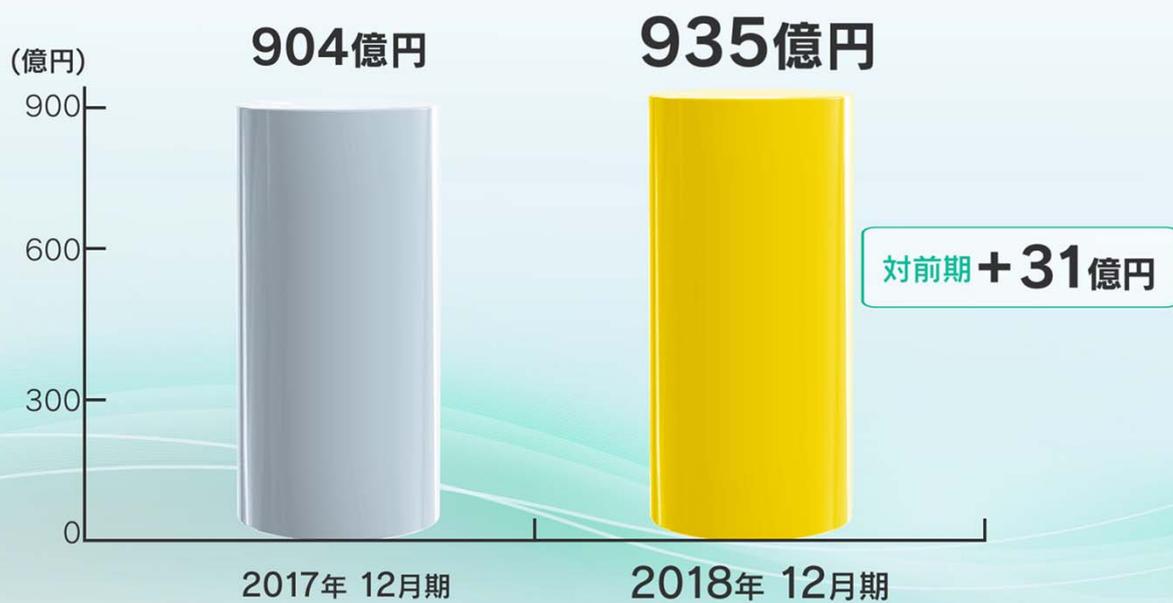
当期利益は、前期に対して67億円増の1,553億円となりました。

## 基本的1株当たり当期利益



基本的1株当たり当期利益は前期より15円95銭増加し、314円25銭でした。

## EVA(経済的付加価値)



※EVAは、スターン・スチュワート社の登録商標です。

EVA (経済的付加価値) は、税引後営業利益が増加し、前期を31億円上回り935億円となりました。

# 事業別の概況

化粧品事業

スキンケア・ヘアケア事業

ヒューマンヘルスケア事業

ファブリック&ホームケア事業

ケミカル(化学品)事業

次に、事業別に概況をご説明いたします。

## 化粧品事業

### 売上高



### 営業利益



化粧品事業は、新たな成長戦略を発表し、重点戦略ブランドを決め、選択と集中を進めました。

売り上げは、前期に対して実質5.0%増の2,796億円、営業利益は277億円となり、前期に対し147億円増と大きく改善しました。

## 化粧品事業

SUQQU



RMK



freeplus



キュレル



KATE TOKYO



ソフィーナiP



カウンセリング化粧品の「SUQQU」や「RMK」、セルフ化粧品の、「フリープラス」と「キュレル」の売り上げが、好調に推移しました。

また、9月に改良した土台美容液「ソフィーナiP」も、順調に売り上げを伸ばしています。

アジアでは、中国を中心にフリープラスやキュレル、KATEが好調に推移し、売り上げ・利益ともに大きく伸長しました。

## スキンケア・ヘアケア事業

### 売上高



### 営業利益



スキンケア・ヘアケア事業では、売上高は、3,414億円、実質2.7%増となりました。

営業利益は、欧米の構造改革費用を計上したこと等により、対前期5億円減少し、488億円となりました。

## スキンケア・ヘアケア事業

ビオレ UV



ビオレ  
おうち de エステ



ビオレ u



リライズ



ORIBE



スキンケア製品の「ビオレ」は日本とアジアで順調に売り上げを伸ばしましたが、アメリカでは、競合の類似品の激しい攻勢を受けました。

ヘアケア製品では、日本で、革新的な白髪ケア「リライズ」を発売し、好調に推移しましたが、ボリュームの大きいマス市場向けのシャンプー・リンスが低調で、売り上げは前期を下回りました。

また、2018年1月にスーパープレミアム価格帯のヘアサロン向けブランド「オリベ」を所有する米国のOribe Hair Care社を買収し、好調に推移しています。

## ヒューマンヘルスケア事業

### 売上高



### 営業利益



ヒューマンヘルスケア事業全体の売上高は、2,677億円、  
実質4.4%減少しました。

営業利益は、ベビー用紙おむつの売り上げ減少やパルプ価格の上昇等により、  
前期に対して65億円減の279億円となりました。

## ヒューマンヘルスケア事業

メリーズ



ロリエ



リリーフ



ピュオーラ



めぐりズム



ベビー用紙おむつ「メリーズ」は、このあと議長の澤田からも話がありますが、日本では中国での転売を目的とした需要が大きく減少し、売り上げは前期を下回りました。

中国でも、転売業者の保有していた在庫が市場に安値で出回ったことで、売り上げは前期に比べて減少しました。

一方、インドネシアでは、現地生産のメリーズが好調に推移しました。

生理用品「ロリエ」は、日本、中国等で高付加価値品が好調に推移し、大人用紙おむつは、「リリーフ まるで下着」が、順調に売り上げを伸ばしました。

歯磨き等のオーラルケアや入浴剤、めぐりズムの売り上げも、順調に推移しました。

## ファブリック&ホームケア事業

### 売上高



### 営業利益



ファブリック&ホームケア事業全体の売上高は、3,441億円、実質2.6%の増加となりました。

営業利益は、石化原料等の価格上昇の影響等により、前期に対して50億円減の712億円となりました。

## ファブリック&ホームケア事業

アタック抗菌EX  
スーパークリアジェル



アタック抗菌EX  
Wパワー



フレアフレグランス



キュキュット  
CLEAR泡スプレー



ファブリックケア製品は、大手競合との競争が非常に激しいのですが、価値伝達を強化した衣料用洗剤「アタック」や、改良した柔軟仕上げ剤の「フレアフレグランス」が健闘しました。

ホームケア製品は、日本では、食器用洗剤「キュキュット」の泡スプレータイプを改良し、順調に推移しました。

## ケミカル(化学品)事業

### 売上高



### 営業利益



ケミカル事業全体の売上高は、3,128億円、実質0.5%の増加となりました。

営業利益は、最高益を更新し、前期に対して3億円増の306億円となりました。

## ケミカル(化学品)事業

油脂アルコール



ハードディスク用研磨剤



道路用薬剤



インクジェット用インク

油脂製品は、海外での需要は堅調でしたが、油脂原料価格の下落に伴う販売価格の下落で、売り上げは減少しました。

インフラ関連分野での道路用薬剤やハードディスク用の研磨剤などは順調に推移しました。またインクジェット用インクの拡販にも力を入れています。

以上が事業別の概況ですが、全事業総じて申し上げますと、メリーズとシャンプー・リンスが低調で、それを他の商品でカバーした一年でした。特に、化粧品への貢献が大きかったと思います。

# 連結計算書類

次に、連結計算書類についてご報告します。

# 連結財政状態計算書

資産合計  
**1兆4,274億円** → **1兆4,610億円**  
 (+336億円)



2017年 12月期      2018年 12月期

主な増加

棚卸資産	137億円
有形固定資産	231億円
のれん	416億円
無形資産	297億円

主な減少

現金及び現金同等物	771億円
-----------	-------

連結の財政状態計算書につきましては、資産合計は、1兆4,610億円となり、前期に比べ336億円増加しました。

内訳はご覧の通りで、積極的な設備投資やM&Aの結果です。

# 連結財政状態計算書

負債合計  
6,080億円 → 6,225億円  
(+175億円)



負債合計は、前期に比べ175億円増加し、6,225億円となりました。

退職給付に係る負債の増加によるものです。

# 連結財政状態計算書

資本合計  
8,194億円 → 8,355億円  
(+161億円)



主な増加

当期利益 1,553億円

主な減少

自己株式の取得 500億円  
配当金 575億円  
その他の包括利益 321億円

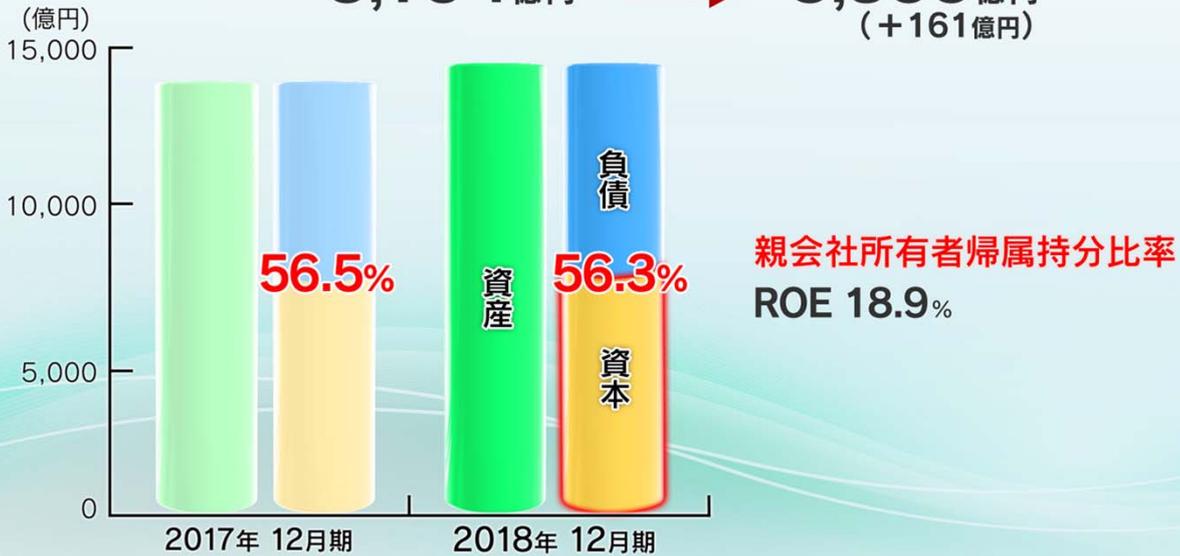
資本合計は、前期に比べ161億円増加し、8,355億円となりました。

内訳はご覧のとおりです。

また、2018年は総額500億円の自己株式を取得し、630万株消却しました。

## 連結財政状態計算書

資本合計  
8,194億円 → 8,355億円  
(+161億円)



以上の結果、親会社所有者帰属持分比率は、56.3%となりました。

ROEは18.9%で、高い水準を維持しています。

なお、設備投資の状況、資金調達の状況、対処すべき課題については、お手元の招集ご通知30ページをご覧くださいようお願い申し上げます。

# KaO

自然と調和する ころ豊かな毎日をめざして

以上、花王グループの事業報告及び連結計算書類の概略についてご報告申し上げます。